

て、喀喇崑崙道を通過せり。惟ふに此等の爲めに謝絶せしならんも、或は他に理由の存するもの無くんばあらず。即ちギルギットにはパミール高原に對し、印度の防備上、若干の軍隊を駐屯せしめ、且つ此山路は所謂坎巨地を通過す。印度政廳は、駐在武官を置きて、現王を督しつゝ在り。同政廳の言明する所に依れば、單に自國の郵便線路を保護するの外他意なしと。とは云へ坎巨地王の庫車に漂泊する所以王子の葉爾羗に流浪する所以、印度政廳の王弟を立て、之を監督する所以、予の通過を許可せざりし所以等を綜合して考へ來れば、暗黒の裡又一道の光明を認め難きに非ざるなり。されど开は一に讀者の判斷に任せんと欲す。

沿革

葉爾羗は漢の莎車國たり。宣帝の時(紀元前六十年代)莎車王子なくして烏孫公主の子萬年を愛せり。王死するに及び、國人朝に請ひ立て、王と爲さんとす、漢乃ち萬年をして國に入らしむ。萬年暴戾、國人悦ばず。前王の弟呼屠徵、萬年を弑し、自立して王と爲り、遂に漢に背く。元康元年(紀元前五十年)衛候馮奉世、大宛(今活)の客を送り、便宜諸國の兵を發し、一撃彼を斬り、更に王を立つ。王莽の時(紀元十一年)匈奴西域を侵略す。獨り莎車王延之に抗せり。天鳳五年(十八年)延死するや、忠武と諡し、子康